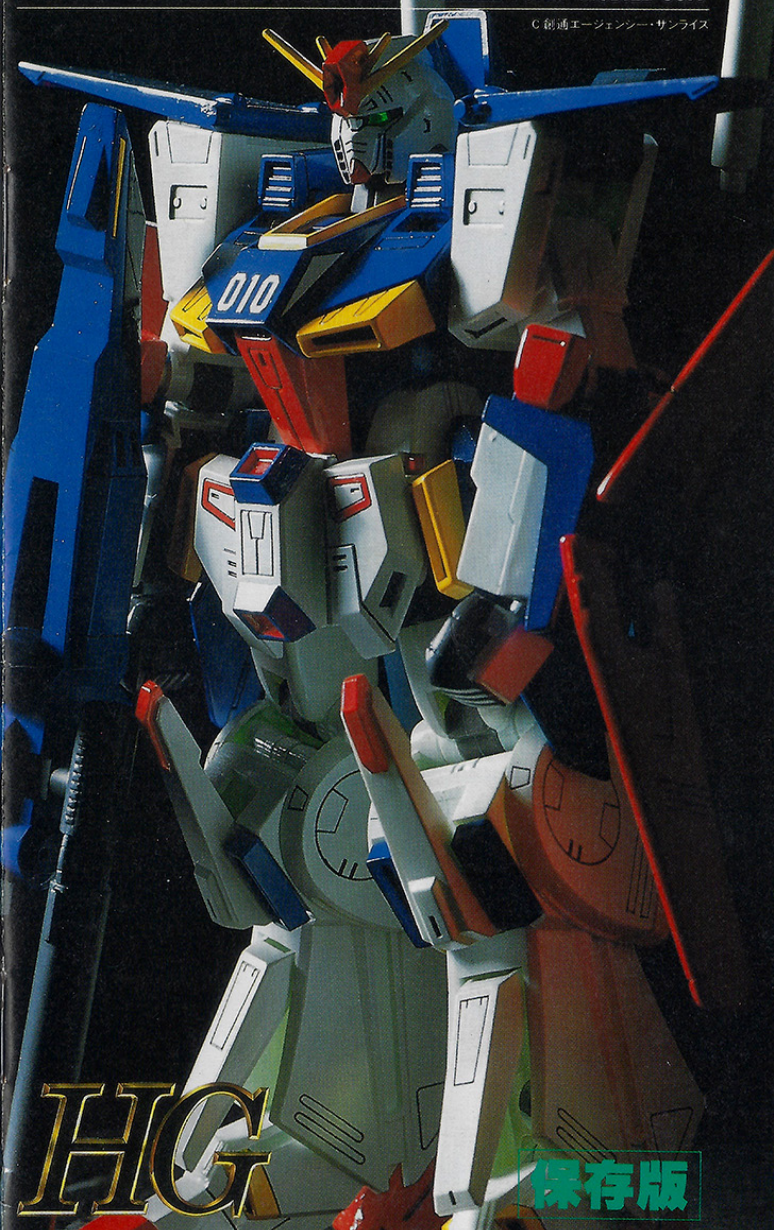


MSZ-010 'ZZ' GUNDAM'

A.E.U.G. ATTACK USE PROTOTYPE VARIABLE FORM MOBILE SUIT

© 創通エージェンシー・サンライズ



HG

保存版

1/144 MSZ-010「ダブルゼータガンダム」

Designer: Kunio Ohkawa. He has made another design newly for us. And, BANDAI has just embodied his draft in plastic models. We did every technique we could do. Now his arts are coming true and moving... full color mold, snap kit, ... when you open the box, you know another great GUNDAM from BANDAI.

BANDAI 1991 MADE IN JAPAN

BAN
DAI



▲アクシズ=ネオ・ジオンとの戦役は、アクシズ内勢力の内紛も加わり壮絶な殲滅戦の様相を見せる。その最後のとき、エウゴの主力MSΖΖガンダムと、アクシズの旗機である

▲AMX-004キュベレイの一騎討ちが繰り広げられた。偶然生き残っていた監視カメラがその一瞬をとらえた。この戦いが、この時期のMSの有様を象徴しているのかもしれない。

「このMSは、あまりにも怪物 的であり過ぎる。」

(「機動兵器最先端」フォン・ブラウン・タイムズ社刊〜本文第2章

「Z計画のMS」より抜粋)

■恐竜的進化を始めたMS

宇宙世紀0097年から、0098年にかけてはモビルスーツ(以下、MS)に関してはかなりの激動期である。ムーバブルフレームを使用した第2世代から、変形機構を備えた第3世代、さらに万能的な性能を追求した第4世代といえる実験的な機体など、量産機から試験機まで3桁にも達する種類のMSが戦場に登場している。

エウゴとティターンズによる地球連邦軍内の対立、また、アクシズを中心としたジオンの再来など、地球圏が、1年戦争の時期に勝るとも劣らない戦乱の状態に陥っていたこともあるが、同時に1年戦争時に実戦投入された新兵器MSがかなりの有効性を認められ、主力兵器と

して各軍が積極的に導入を開始したためだ。

あまりにも多種、多様な要求がなされ、当初の目的であった汎用性の高い白兵戦を中心とした機動兵器というものからは、かけ離れてしまった機体も誕生した。それに輪をかけたのは、ムーバブルフレームを活かした変形機構を持つMS群である(TMS)。

変形することにより、推進系を進行方向に集中させ、スピードと航続距離を向上させるなど、数々のメリットでTMSはMSの機能を拡大させることに成功した。特に、推進機能の拡大はMSを大気圏内で飛行させることを可能とした。こうして、MSは全域での主力兵器として

の座を獲得した。だが、このことが逆にMSの汎用兵器としての機能に関してデメリットを生じさせることになる。

変形機構を加えることにより、機体にはどうしても脆弱な部分が生じてしまう。白兵戦を主体とするMSだけにこれは問題となる。そのため、補佐する装甲部分を増さなくてはならない。変形機能によって加えられた付加機能の方が注目を浴び、その機能を向上させるために本来のMSには必要とされない装備が付加されるようになった。しかし、これらのものの多くは白兵戦時にはデッドウェイトとなる。それを補うために高出力のジェネレーターを搭載することになり、さらに各種の装備の保護のために装甲を増すこ

とになる。こうして、MSは徐々に巨大化を余儀なくされる。TMSの平均全長は、1年戦争時のMSの17m前後に比べると、1割増しの20m強になっている。

巨大化に伴い、さらに多くの機能が要求される。戦艦クラスに匹敵、もしくは優るような火力。大気圏内を含めた航続距離の延長、機動力の強化。白兵戦における圧倒的な優位性、など、など、など。要求する側は、MSを単体戦力での万能兵器にしたがっているかと思えないものだった。

現実としては、不可能なことだが、それだけ1年戦争時のMSの戦果が圧倒的なものであった証明といえる。案外、開発スタッフの中にムービービジョンのビ



■ G-FORTRESS MODE

Space Cruising And Bombing Form

◀武装系を前面に、推進基系を後方に集中し重爆撃機として機能するMS Z-010のGフォートレスモード。その火力、耐遠距離ともに戦艦クラスに匹敵する能力を有している。1年戦争時のGアーマーを基本コンセプトに開発されたものだが、シルエット的にも酷似したものを持っている。分離後のAパーツがコア・トップ、Bパーツがコア・ベースとなる。

■ MOBILE SUIT MODE

Anti Mobile Suit Cross Combat Form

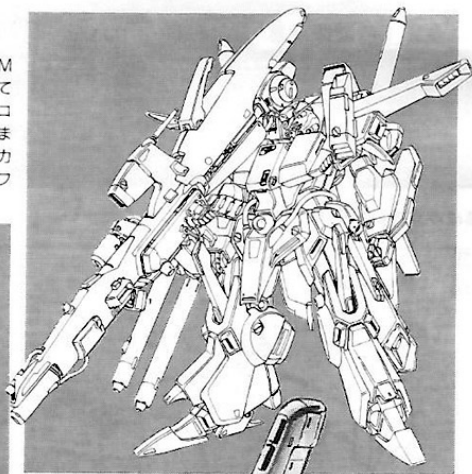
▼同クラスのMSに比べ、火力、出力とともに比類のないものを持っているMS Z-010のMSモード。特に頭部に装備されたハイ・メガキャノンには圧倒的で、戦艦クラスのもの凌駕する出力がある。ただし、エネルギーを一気に放出するので一時的に行動不能になる。

■CORE FIGHTER OPERATION

▼MSの操縦システムであり、脱出装置を兼ねるコア・ブロックシステム。飛行能力にかなが優れたものを持つに至ったので、独立した戦闘機としても運用されるようになる。連邦初のMSであるRX-78系列に採用された。パイロットの生還率、コンピュータ・データの回収ともに高い確率を持っているので、その後も連邦の操縦システムとして開発が続けられた。だが、製造・運用コストがあまりにも高くなり過ぎるため、常に量産機への採用は見送られた。左から、RX-78用、RX-78GP01用、MSA-0011用、MSZ-010用のコア・ファイターである。GP-01用のFF-X8は火力的にも優れたものを持っている。

■FAZZ

▶分離、合体システムを持つMSZ-010は、強度的にどうしても脆弱な部分が生じる。特にコア・ブロックはむき出しのままである。その部分を保護し火力を強化するために考慮されたフルアーマーシステムである。



■FF-X8 CORE FIGHTER II

■FF-X7 CORE FIGHTER

■FXA-08GB G-CORE

■FXA-07GB CORE FIGHTER

一ローロボットのファンがいたのかもしれないが。

万能的な機能を搭載するために、機体の巨大化はさらに増進される。30mは優に越え、40mに達しようという機体まで登場した。これらは、あくまで試験機に過ぎないものだったが、MSの万能化が続けばMSの平均全長がそこまになるのは間違いないことだろう。この時期のMSは、進化の袋小路に入り込み、恐竜の進化を遂げたといえる。

この時期に、圧倒的な戦闘能力を秘めたガンダム・タイプのMSが完成している。それが、Zプロジェクト究極のMS、MSZ-010Zガンダムだ。

■超高性能機(?)ダブルゼータ

MSZ-010は、MSZ-006Z(ゼータ)ガンダムの直系の発展系のMSだが、θ(シータ)ガンダムのコードネームで別のコンセプトのもとに開発されたMSである。

この時期の連邦系の新型MSの開発コンセプトの傾向のひとつとして、RX-78ガンダムを復活させることが上げられる。RX-78の戦果は、それほど特筆すべきものであり、ある種伝説的な神秘性を持っていた。ガンダムを主力MSとすることは、一種のステータスとなっていたのだ。

著名なガンダムタイプのMSとしては、RX-178ガンダムMk-II、MSZ-008Zガンダムがある。RX-178は、RX-78をそのまま再現したもの、MSZ-008はムーバブルフレームを活かした変形機構を搭載し、エゥーゴの基本戦略であるジャブロー攻略に主眼を置いて製造された新時代のガンダム・タイプのMSである。

MSZ-010は、RX-78のGアーマーを加えた攻撃システムを単体で再現しようとしたものである。A、Bパーツをそれぞれに変形機構を組み込むことにより、別の戦闘メカニズムとして運用するシステムを採用している。さすがに、地上用

のメカにはならず、大気圏、宇宙空間両用の戦闘機として機能する。

当初は、単純にA、Bパーツの合体分離方式だったが(開発コードナンバーMSZ-009)、これにさらにコア・ファイターシステムが加わることになる。

これには、ふたつの理由がある。ひとつは、全天周モニターを兼ねた脱出ポッドシステムの生還率が意外に低かったこと。人的資源が貴重なエゥーゴにとってはこれは大問題である。コア・ファイターによる生還率の高さは1年戦争時から定評があった。

もうひとつは、火力の充実である。巨大化するMSの中には戦艦クラスをも凌駕する火力を有するものも現われた。M RX-009などはこの典型的な例であろう。これに対抗するためには同等以上の火力を装備しなくてはならなかった。エゥーゴ首脳陣は、60MWクラスの大出力ビーム兵器を搭載可能とすることを要求した。

同時に機動性の維持を考え、全長を20m内に収める要求も出された。両方の要求を満たすために、アナハイム・エレクトロニクス技術陣は、小型・高出力のジェネレータを開発した。だが、それは8基分の出力を必要とした。2基で搭載する場合は、MSの全長が25m以上必要だった。そこで、A、B、コア・ブロックの3つに分散したのだ。

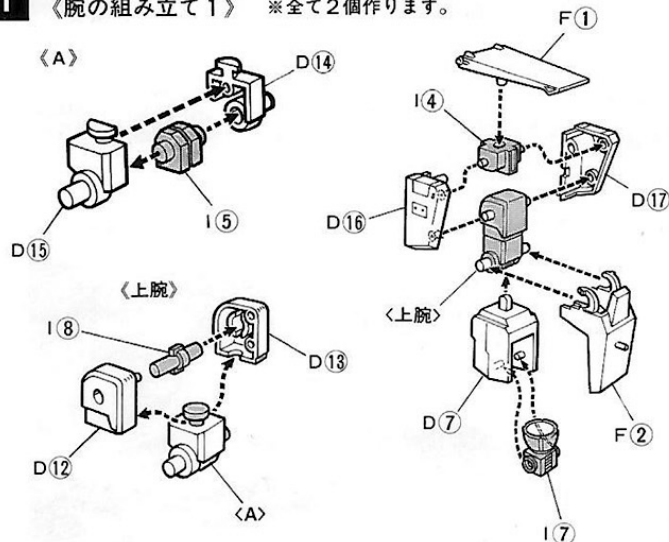
こうして、たぐいまれなる火力を秘めたガンダム・タイプのMS、MSZ-010Zガンダムは誕生した。しかし、問題も残った。各パーツの操縦システムとなるコア・ブロックは、MS形態になったとき、うち2基が不要なものとなってしまふ。また、システムが複雑になり過ぎたために整備性は非常に悪く、それを問題にする声も少なくない。

組み立てる時の注意

- この商品は、接着剤を使わずに組み立てられるスナップフィットモデルです。
- 組み立てる前に説明図をよく読みましょう。
- 部品は、番号をたしかめ、ニッパーなどできれいに切りとりましょう。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。

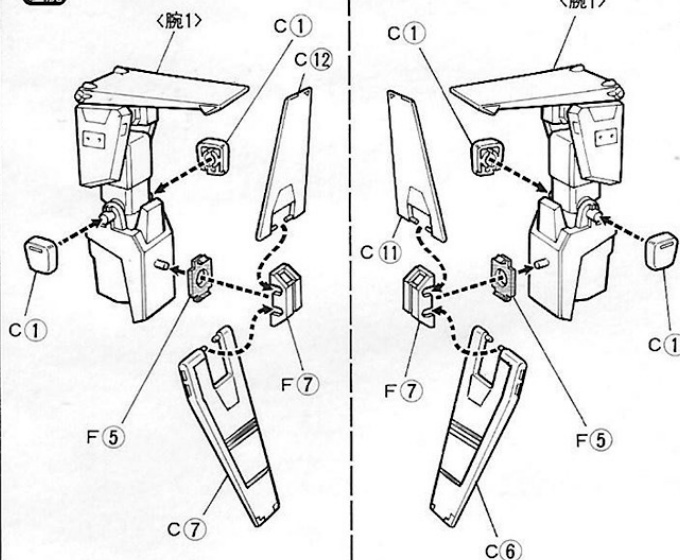
■組み立てには⊕ドライバーを用意してください。

1 《腕の組み立て1》 ※全て2個作ります。

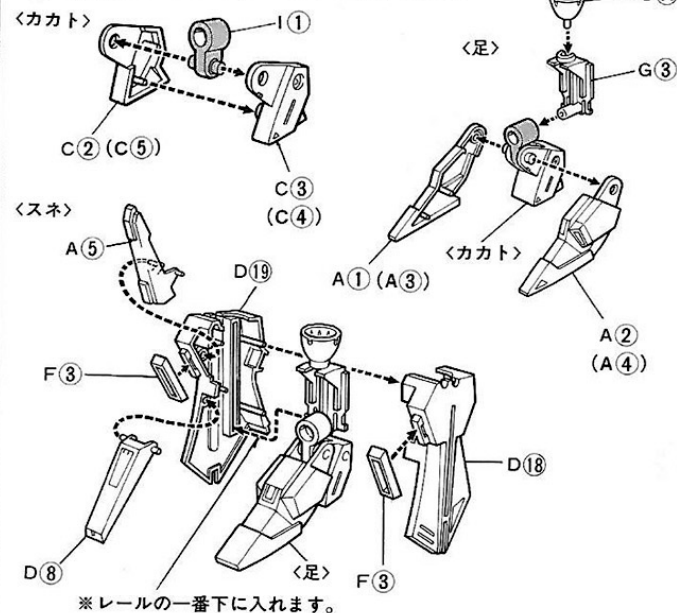


2 《腕の組み立て2》

左腕

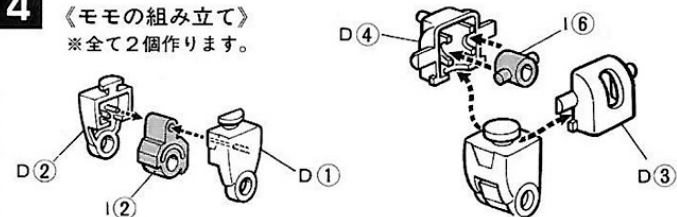


3 《スネの組み立て》 ※全て2個作ります。

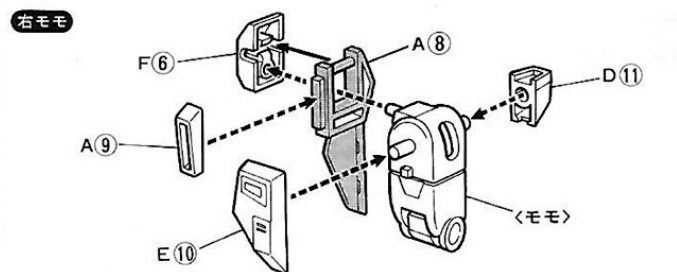


4 《モモの組み立て》

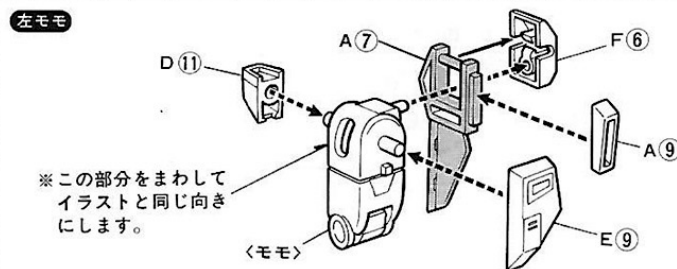
※全て2個作ります。



右モモ

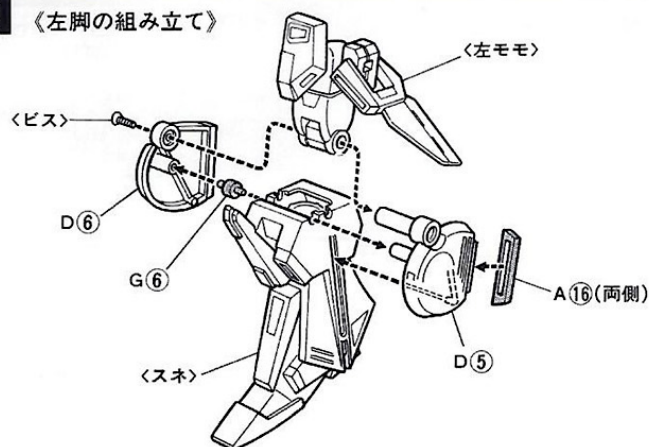


左モモ



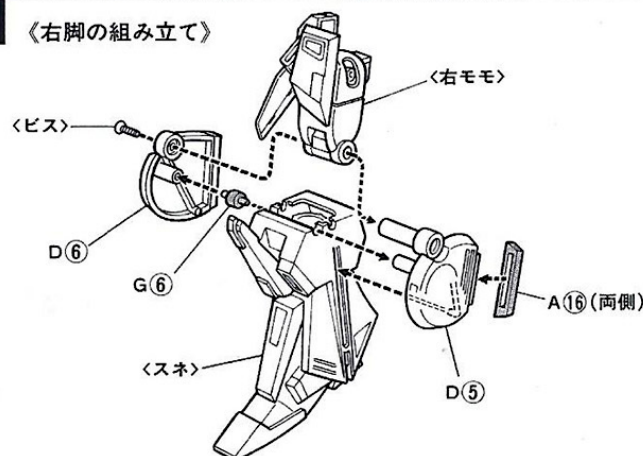
5

《左脚の組み立て》



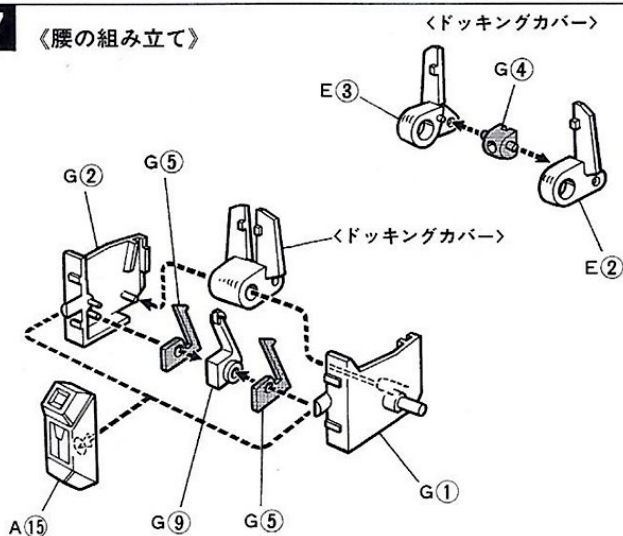
6

《右脚の組み立て》



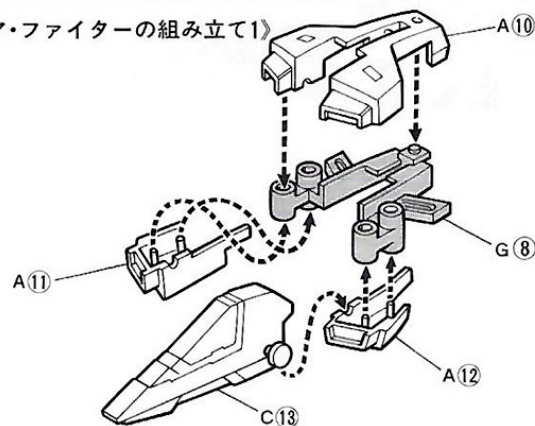
7

《腰の組み立て》



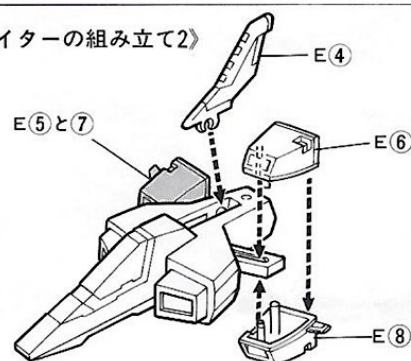
8

《コア・ファイターの組み立て1》



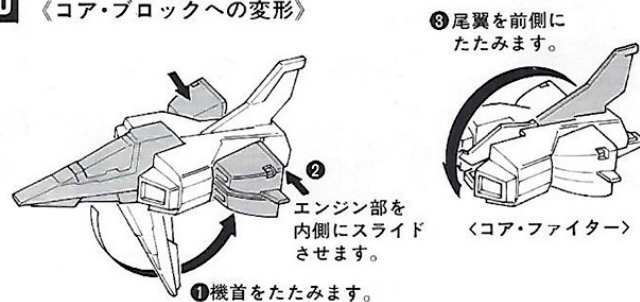
9

《コア・ファイターの組み立て2》



10

《コア・ブロックへの変形》

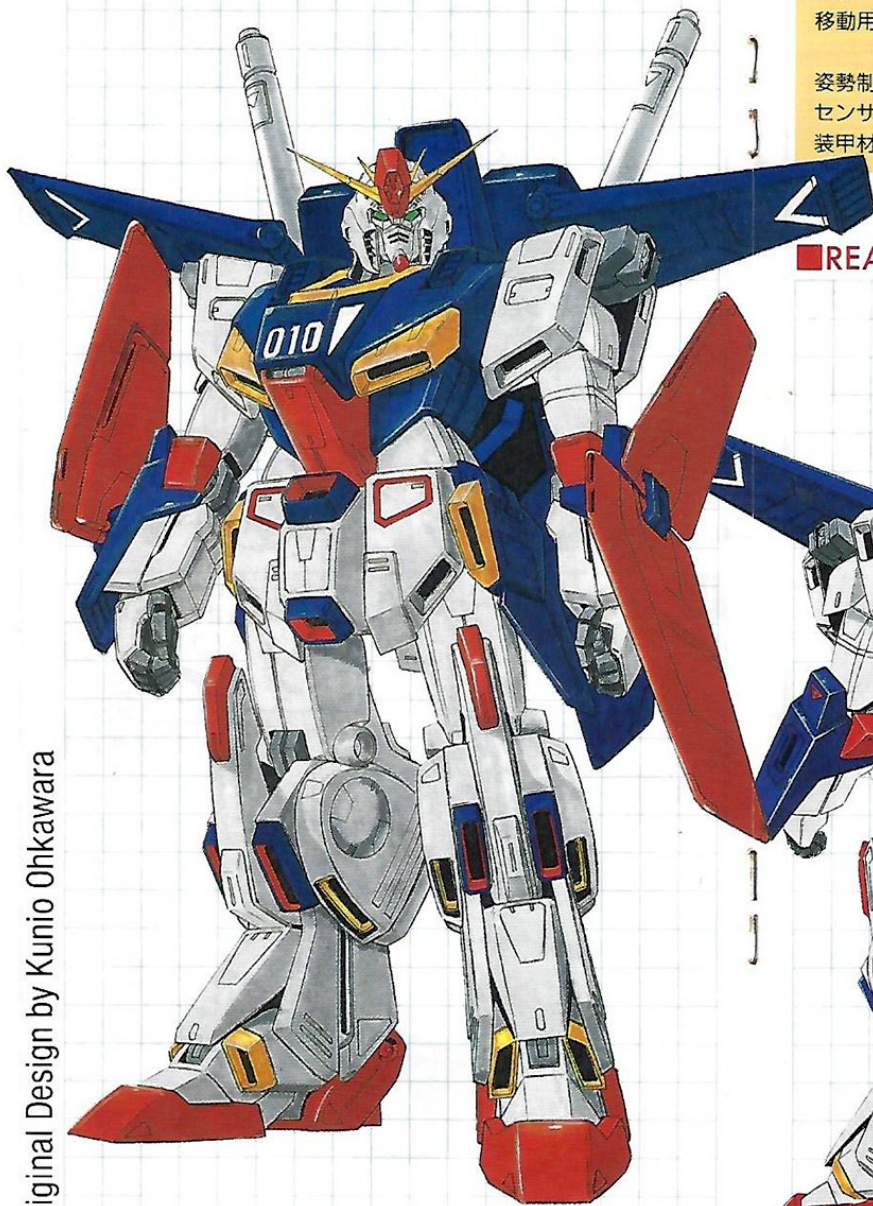


《完成写真》



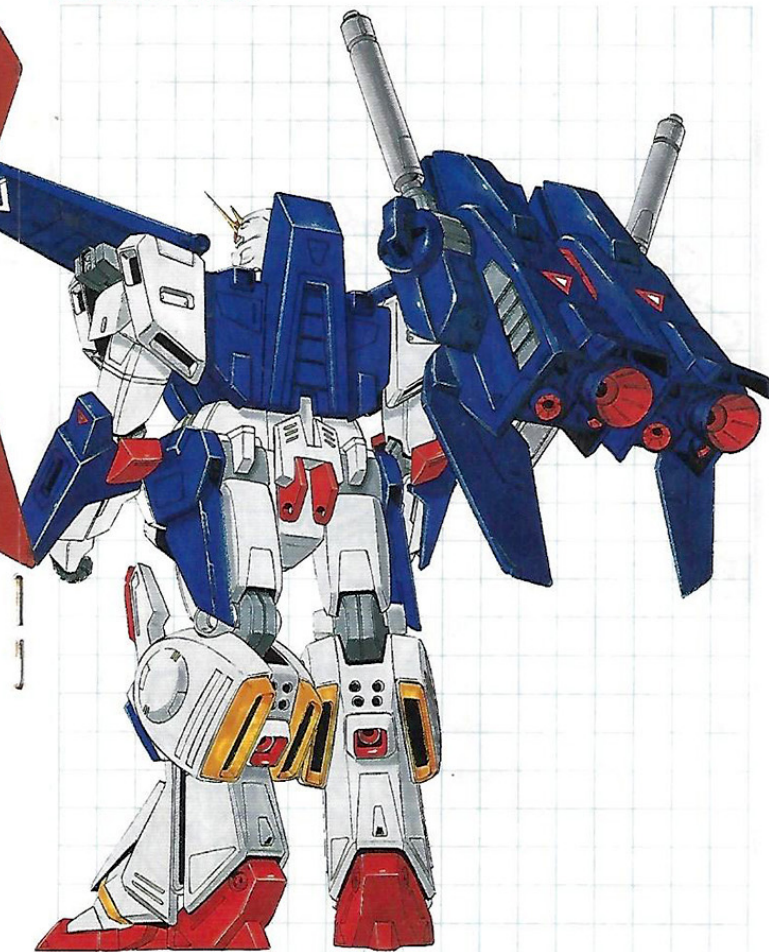
●この説定イラストは、メカ・デザイナーの大河原邦男氏がHGモデル用に新たに描き起したものです。

FRONT VIEW



全 高:22.11m	本体重量:32.7t	武装:ダブル・ビーム・ライフル
頭頂高:19.86m	全備重量:68.4t	(出力10.6MW)×2
質量比:1.72		:ハイパー・ビーム・サーベル
パワージェネレータ出力:7,340kW		(出力1.1MW)×2
移動用ロケット推力:21,700kg×2		:ダブル・ビーム・キャノン
	:14,400kg×4	(出力10MW)×2
姿勢制御用バーニア:32基		:ハイ・メガ粒子キャノン(出力60MW)
センサー有効半径:16,200m		:ダブル・バルカン
装甲材質:ガンダリウム合金		:ミサイル・ランチャー×2

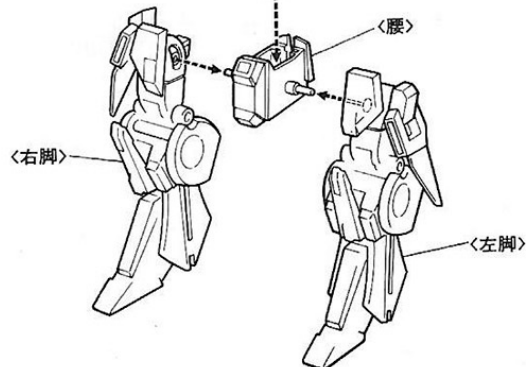
REAR VIEW



11

《脚の取り付け》

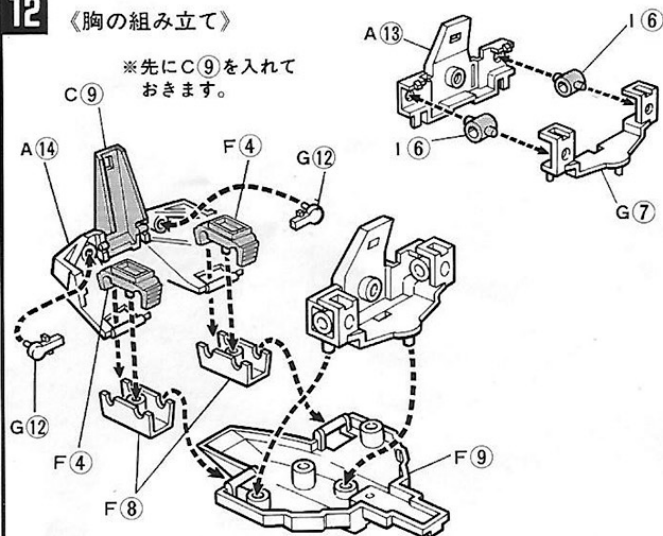
※コア・ブロックを腰(内側)のツメにかけます。



12

《胸の組み立て》

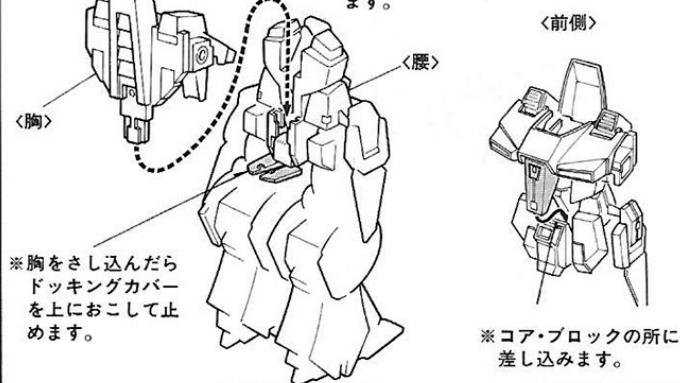
※先にC9を入れておきます。



13

《胸の取り付け》

※胸を腰にさし込みます。

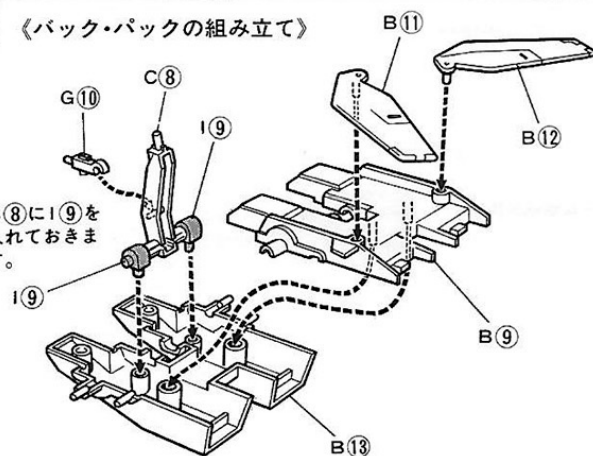


13

14

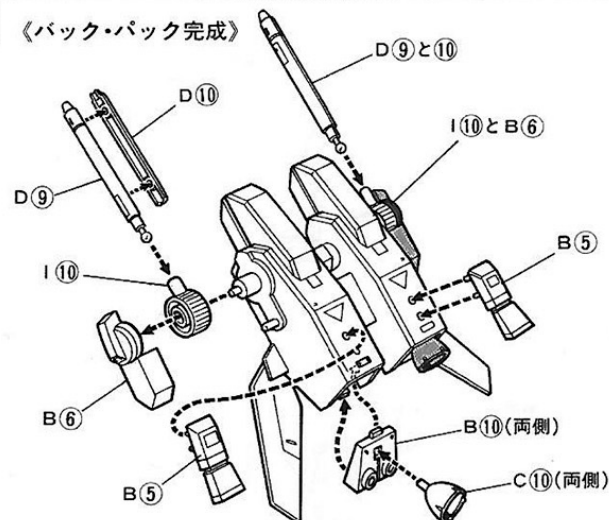
《バック・パックスの組み立て》

※C8にI9を入れておきます。



15

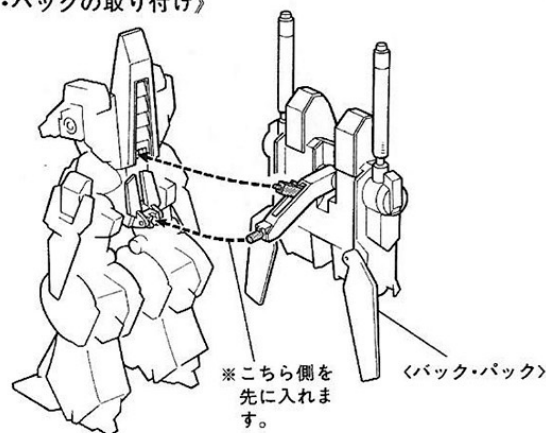
《バック・パックス完成》



16

《バック・パックスの取り付け》

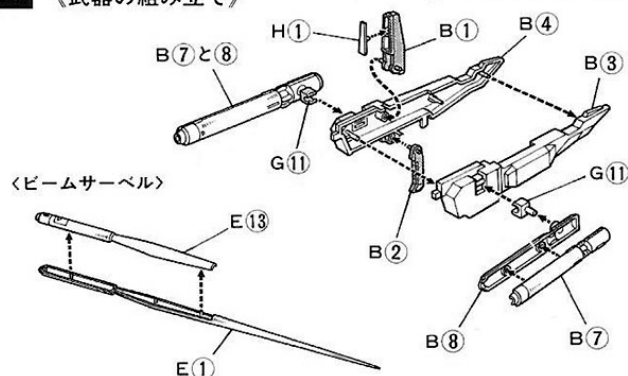
※こちら側を先に入れます。



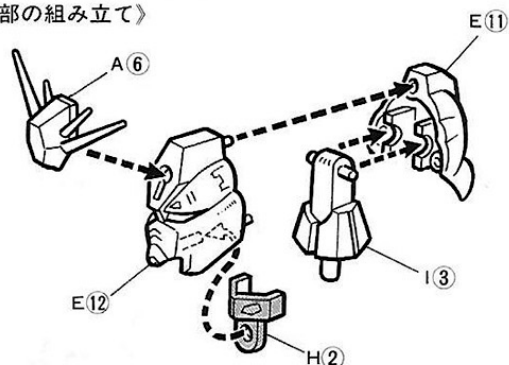
14

《武器の組み立て》

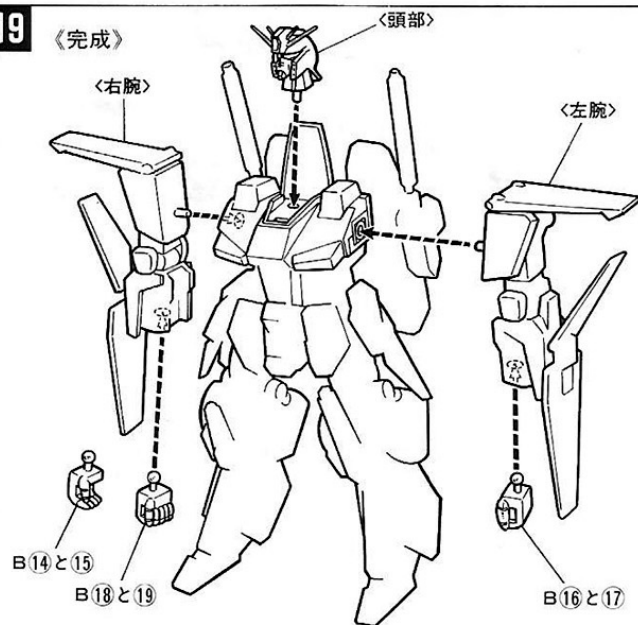
《ダブルビームライフル》



《頭部の組み立て》



《完成》

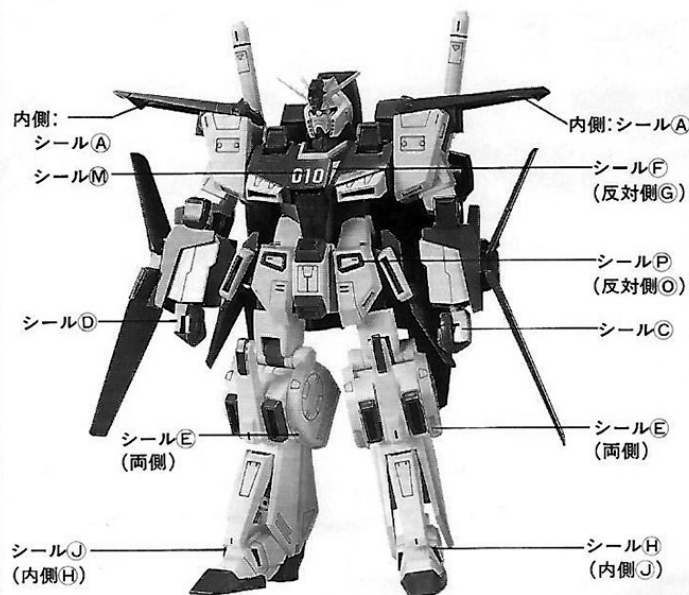


※ B14と15の手には、ビームサーベルを持たせることができます。

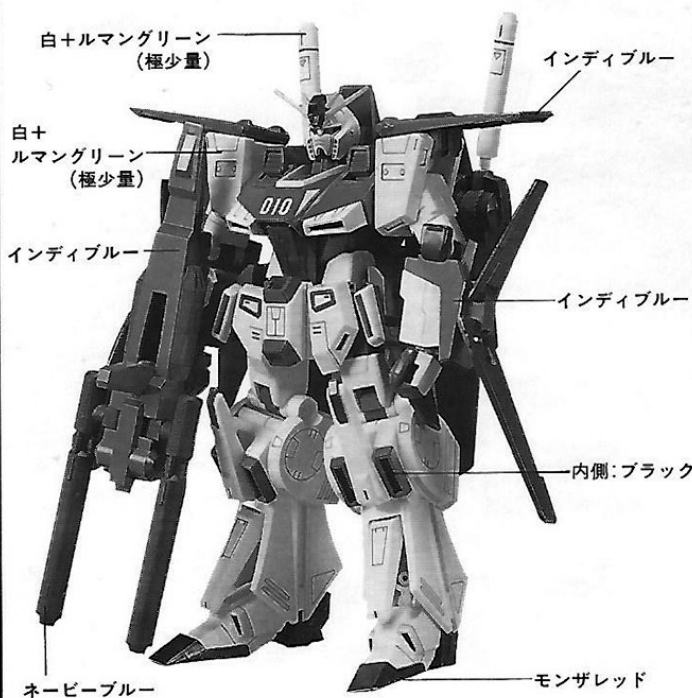
※ B18と19の手には、ダブルビームライフルを持たせることができます。

シール&細部ペインティング

●シールをはる方は、この写真を見てはってください。



■FRONT VIEW



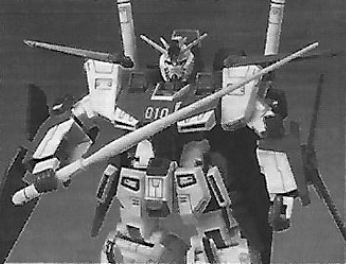
■頭部アップ

モンザレッド モンザレッド イエロー

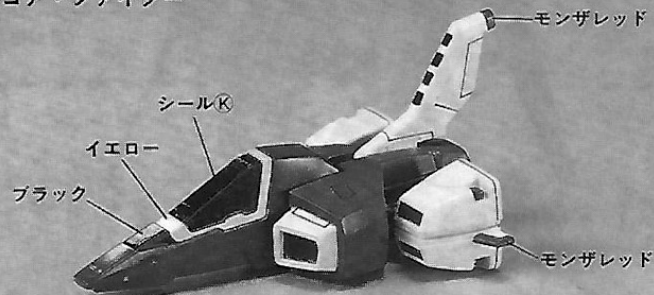


■右手の甲 シールB

キビームサベル:ピンク



■コア・ファイター



■REAR VIEW

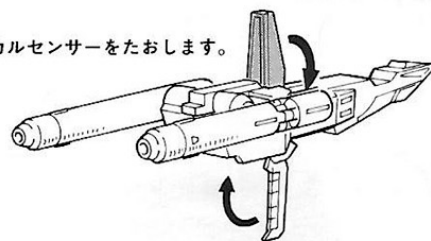


モビルスーツ形態からGフォートレスへの変形システム

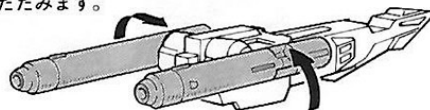
1

《ダブルビームライフル》

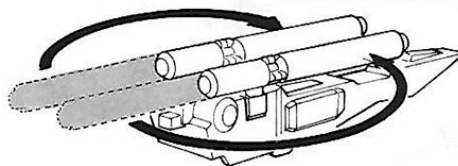
① オプティカルセンサーをたおします。



② 砲身を上にたたみます。



③ 砲身を180度、後ろに回転させます。

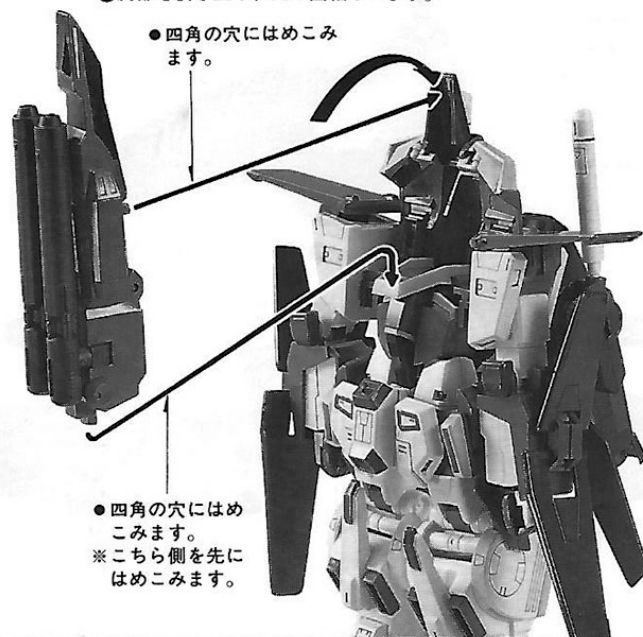


2

① 頭部を取り外します。

② 胸部を引き上げ、上に回転させます。

● 四角の穴にはめこみます。



3

※ショルダーアーマーは、下に向けてから上に180度回転させてください。

180度上に回転

〈ショルダーアーマー〉

●シールドは、おりたたみます。

4

*右腕の変形は、左腕と同じ様にしてください。

〈左腕〉

①腕カバーを外側に開きます。

③手首を180度回転させて、バーニアを出します。

②手首をこの状態にします。

右手収納

左手収納

バーニア

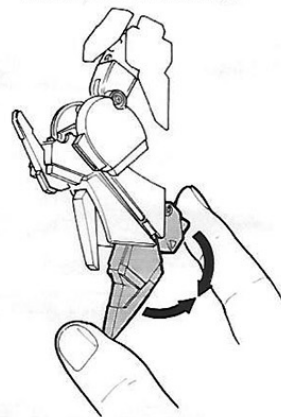
バーニア

5

①足を下にひっぱります。



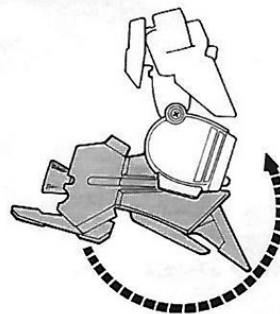
②足首を折りたたみます。



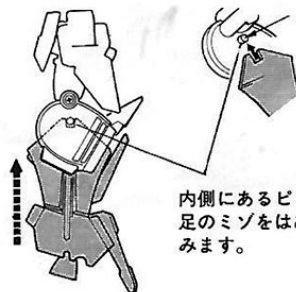
③足首を足の中にスライドさせ、バーニアを押し出します。



④足をスライドさせながら、後ろへ回転させます。



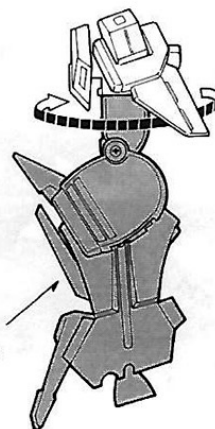
⑤回転させた足のミゾを内側のピンにはめこみます。



内側にあるピンに足のミゾをはめこみます。

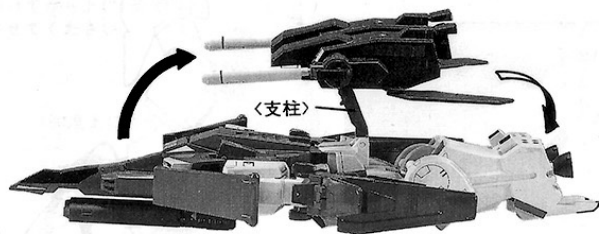
⑥足のもの部分から下を180度回転させます。

足首がこの向きになります。



6

- バックパックを写真のようにはずして、後方へ移します。



＜支柱＞

7

- 腕の部分を90度回転させてシールドを上面にもってきます。



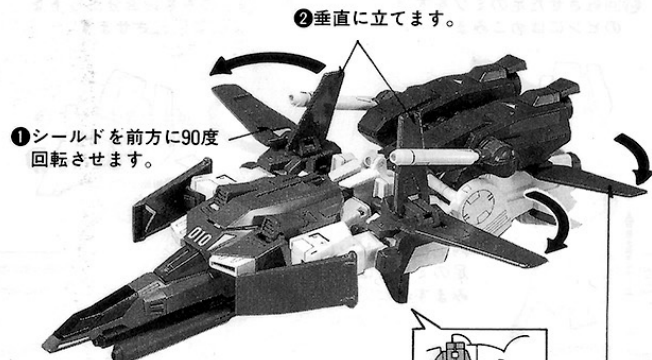
- 90度回転させます。

＜シールド＞

- ひろげてください。

8

＜Gフォートレスの完成＞



- ②垂直に立てます。

- ①シールドを前方に90度回転させます。

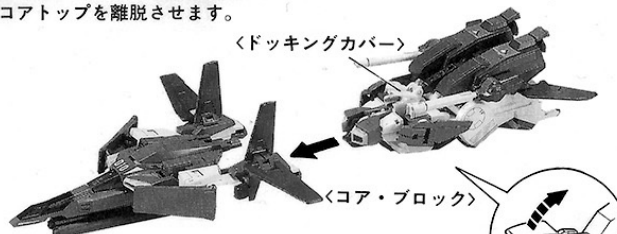
- ④腰のアーモアを下にさげます。

- ③尾翼をひろげてください。

Gフォートレスからコア・トップ、コア・ファイター、コア・ベースの3機へ離脱

- ドッキングカバーを上方に開き、コア・トップを離脱させます。

＜コア・ベース＞

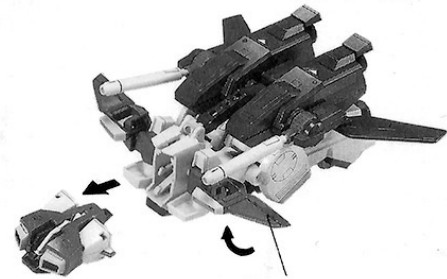


＜ドッキングカバー＞

＜コア・ブロック＞

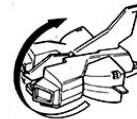
- ※ドッキングカバーを上方に開きます。

＜コア・ベース＞

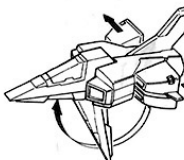


＜コア・ファイター＞

＜コア・ブロックの可変＞

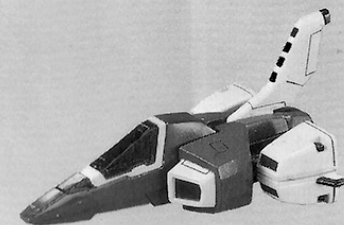


尾翼を引き出します。



エンジン部を横へ引き出して機首を下から上におこしてください。

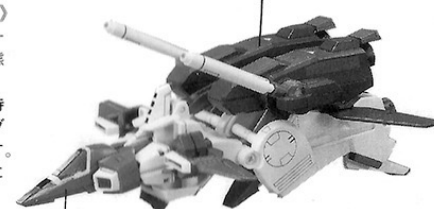
＜コア・ファイター完成＞



＜コア・ファイターとコア・ベースとのドッキング＞

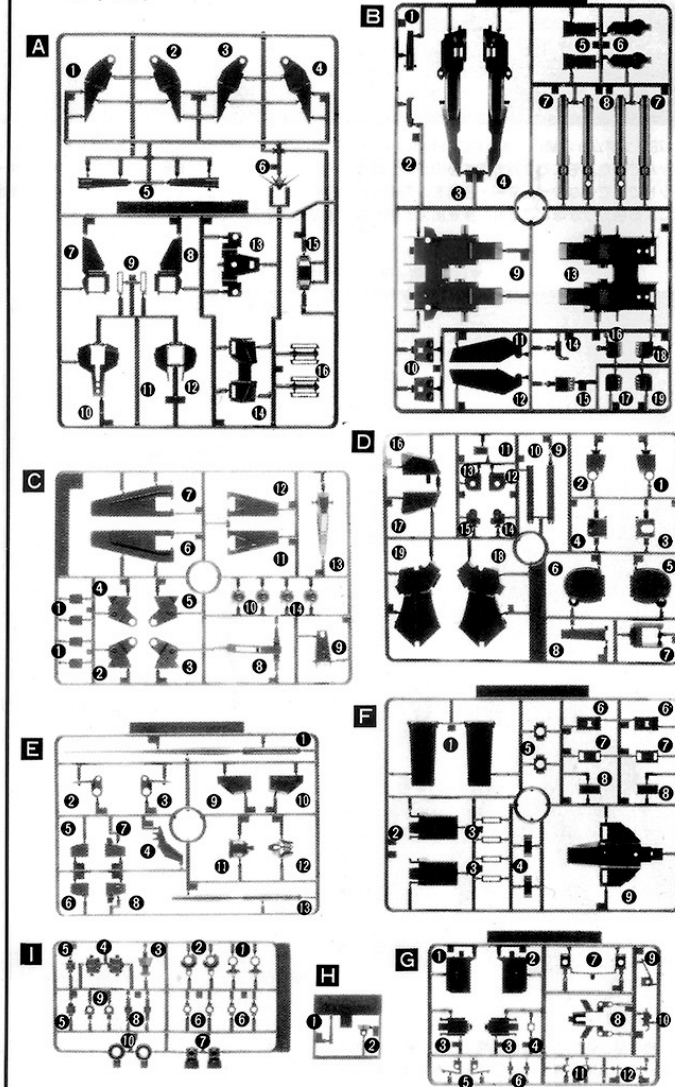
- コア・ファイターのノーマル時のドッキング状態です。
- ※Gフォートレスにする時はコア・ファイターをブロックへと変形させます。水平翼も腰部アーモアにもどします。

＜コア・ベース＞



＜コア・ファイター＞

パーツリスト



★この製品は、多色・異材射出成形機により生産されたものです。

(特許出願中) ※Dパーツは2枚あります。●シールド…1 ●ビス…2

お父さま、お母さま方へ

部品のこわたり、なくした人には実費にて部品をお付けします。必ず部品注文カードに必要な部品番号・数量などをはきり書いて切り取り、部品代金(部品代+当社からの郵送料)を郵便為替(料金の安い定額小為替も可)で下記のお客様相談センターまでお申し込みください。部品代は1個40円で郵送料は120円です。

郵便為替は、この部品代金他に「為替料金」が加わりますので、くわしくはお近くの郵便局でおたずねください。部品数多くて郵送料が120円をこえる時には不足分を請求させていただきます。それ以下の時は残額をお返しします。(お送りする部品の形状・数量により郵送料が変わります。)

もし部品に不良品がございましたらその部分を切り取り、商品名を書いて当社までお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先
静岡県清水市西久保305 千424
㈱バンダイ静岡工場お客様相談センター
部品係
TEL.0543-65-5315

部品注文カード '91.7-1500

1/144 HG-ZZガンダム

必要な部品の番号・数量をかく

●注文された理由(○でかこむ)
こわした なくした

●部品の注文は「郵便為替」(定額小為替でも可)でお申し込みください。

MSZ-010 'ZZ GUNDAM'

“MSZ-010”「ZZガンダム」HG誕生

Modeling by Iwane Nagasima

モデル制作／長島岩根

RX-78ガンダムから続いていたHG(High Grade)シリーズも第4作目となり、名実ともにファンの心をつかんできた。そこで今回登場するのが1/144スケールのZZガンダムである。今までの1/144スケールキットではできなかった変形・合体をこのキットは可能にしたのである。そして、機体の随所に、多色成形による色分けがほどこされ、手を加える所がない程の完成度を実現したのである。

▼HGの第4弾、ZZガンダムのプロポーション。



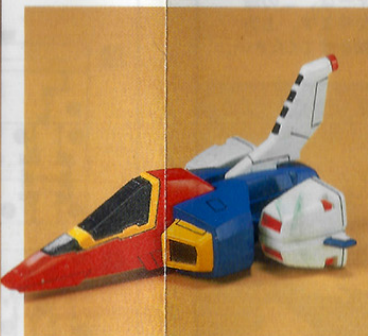
▲この機体は、次世代の性能を模索して作られた機体であるため、従来の可変システムに分離・合体システムを加えた新機軸のモビルスーツとなった。



▲可変した戦闘機形態のGフォートレス。

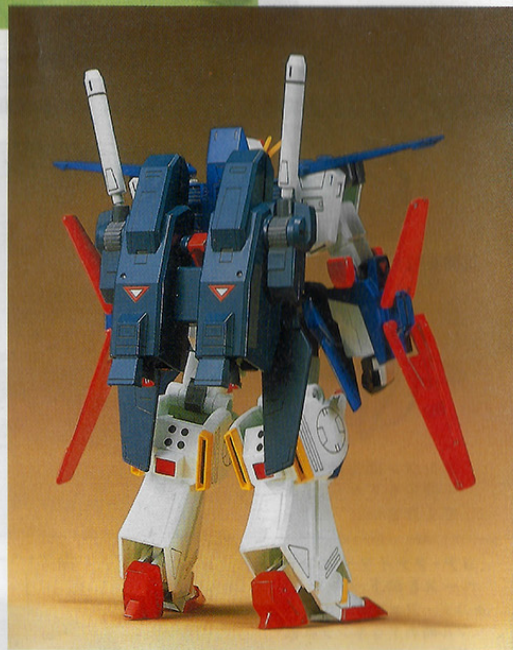
◀胸部と腕部と主砲を組み合わせたコア・トップ。

▼背部には、桁外れのパワーをほこるバック・バックや出力アップのはかれたビームサーベルなどを再現。



▲コクピット・ブロックであるコア・ファイター。

◀腕部と脚部と大型ランドセルによるコア・ベース。



SYSTEM INJECTION

PAT.P.
当社の誇る多色成形技術により、極限にちかいたところまで各パーツを色分けしました。この技術により、組み立てるだけで、ほぼイメージカラーどおりに仕上がります。

